

お ま る が わ  
小丸川総合水系環境整備事業

新規事業採択時評価 説明資料

小丸川流域と河川の概要

- ・小丸川は、その源を宮崎県東臼杵郡椎葉村三方岳(標高1,479m)に発し、山間部を南東に流下し、渡川等を合わせながら木城町の平野部を流下した後、高鍋町に入り切原川、宮田川を合わせ日向灘に注ぐ、幹線流路延長75km、流域面積474km<sup>2</sup> の一級河川である。沿川には、北九州市と鹿児島市を結ぶ東九州地域の主要幹線である東九州自動車道や国道10号、JR日豊本線等の基幹交通施設が整備される等、交通の要衝となっている。
- ・令和7年12月に、気候変動の影響を考慮した河川整備基本方針(変更)を踏まえ、「小丸川水系河川整備計画」の変更を行った。



上流部(源流～比木橋付近)



松尾ダム付近

河床勾配が約1/100程度で急峻な山地を流下し、照葉樹林や美しい渓谷、滝などの自然景観を有している。

中流部(比木橋付近～切原川合流点)



竹鳩橋下流付近

河床勾配が約1/600程度であり、連続する瀬・淵や砂礫河原が広がっている。竹鳩橋下流には、かつての流路の名残である河跡湖※が見られる。

※河跡湖: 川の流れが変わってその一部がせき止められ、池や沼になったもの

下流部(切原川合流点～河口)

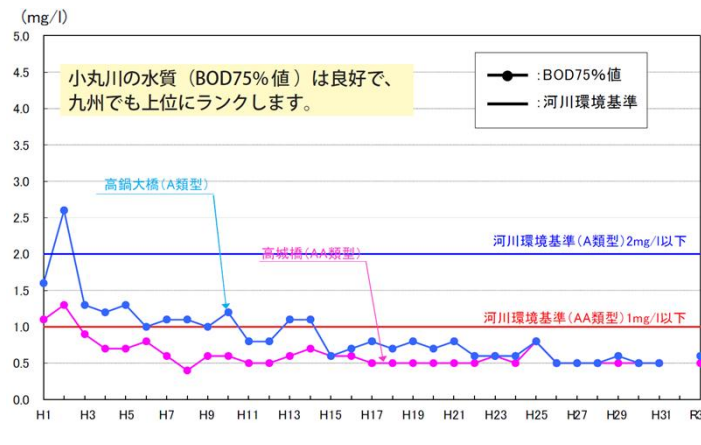


河口付近

河床勾配が約1/2,000程度であり、河口部の入り江には重要な塩性植物が群生する。

## 小丸川の水環境

小丸川の水質(BOD)は、高城橋から上流は水質環境基準AA類型に、高城橋から河口まではA類型に指定されており、いずれの地点(高城橋地点、高鍋大橋地点)も近年は、環境基準値を満足している。



## 小丸川 of 自然環境

### 【動植物の生育・生息・繁殖環境】

- ・上流部では、オイカワ、サクラマス(ヤマメ)の魚類が生息・繁殖する瀬・淵やカワセミ、ヤマセミ等の鳥類の採餌場となる溪流環境、アラカシ林、常緑落葉広葉樹混交林が連続する河岸が見られる。
- ・中流部では、アユ、カマキリ(アユカケ)が生息する瀬・淵や、ギンブナ、コイ等の魚類やテナガエビ等の底生動物が採餌場、避難場として利用するワンド・たまり、イカルチドリ等の鳥類が生息・繁殖する礫河原、オグラコウホネ等の重要な植物が多く生育する河跡湖(旧河川)が見られる。
- ・下流部では、コアジサシが集団繁殖する河口砂州や、シオマネキ、アシハラガニ等の底生動物やトビハゼ等の魚類が生息・繁殖する干潟、ハマボウ、シオクグ等の塩生植物が群生し、アカメ等の重要な魚類が生息する入江が見られる。

### 【景観】

- ・上流部は、ダム群と支流を含め多くの瀑布群を交えながら流下し、河岸は山付きの自然河岸を形成している。
- ・中流部は、瀬・淵による変化のある流れや砂礫河原、河跡湖等、多様な河川景観を呈している他、小丸川に向けた比木神社の鳥居に象徴される歴史的な景観も小丸川を特徴づける景色の一つとなっている。
- ・下流部は、水面も広く日向灘に注ぐ河口部に代表されるような開放感あふれる河川景観を呈している。小丸大橋から見る尾鈴山をはじめとする山並みと小丸川の穏やかな流れの調和が美しく特徴的である。

### 【動植物の生育・生息・繁殖環境】

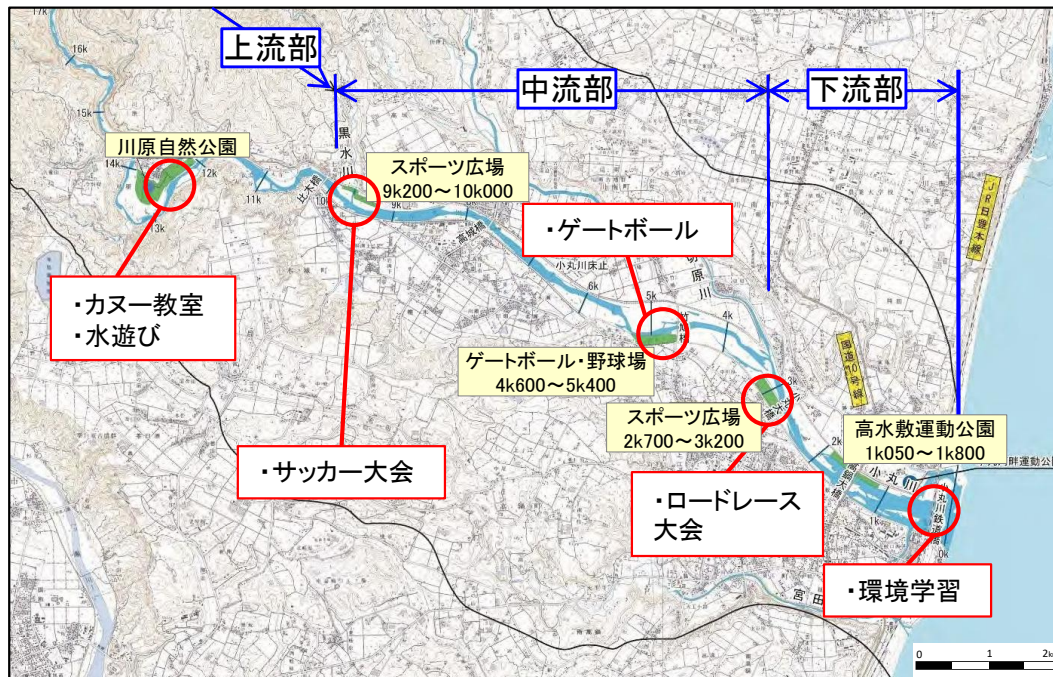


### 【景観】



## 河川の利用状況

- ・小丸川の年間河川空間利用者総数(推定)は約9万2千人(令和6年度)で、利用形態別では散策等が全体の半分以上を占めており、近隣住民により日常的に利用されている。
- ・上流部は、川原自然公園<sup>かわばるしぜんこうえん</sup>においてキャンプやカヌー等の利用がなされ、カヌー教室や自然体験等のイベントが行われている。
- ・中・下流部は、高水敷に複数のスポーツ広場が整備され、ゲートボールやサッカー、ロードレース(マラソン)等の大会が行われているほか、遠足やピクニックなどのレクリエーションに広く利用されている。また、河口部の入り江や河跡湖をはじめとした豊かな自然環境が存在することから、水遊びや釣りのほか、環境学習の場としても利用されている。



表：R6年度河川空間利用者数(推計)・利用状況の割合

区分	項目	年間推計値 (千人)	利用状況の割合
		R6年度	R6年度
利用形態別	散策等	50	
	スポーツ	18	
	水遊び	3	
	釣り	21	
	合計	92	

出典：令和6年度大淀川・小丸川水系河川水辺環境調査(植物外)業務報告書



カヌー教室 (小丸川上流部)



水遊び (小丸川上流部)



ゲートボール (小丸川中流部)



サッカー大会 (小丸川中流部)

ロードレース大会 (小丸川下流部)  
(写真：高鍋町提供)

環境学習 (小丸川下流部)

地域開発の状況

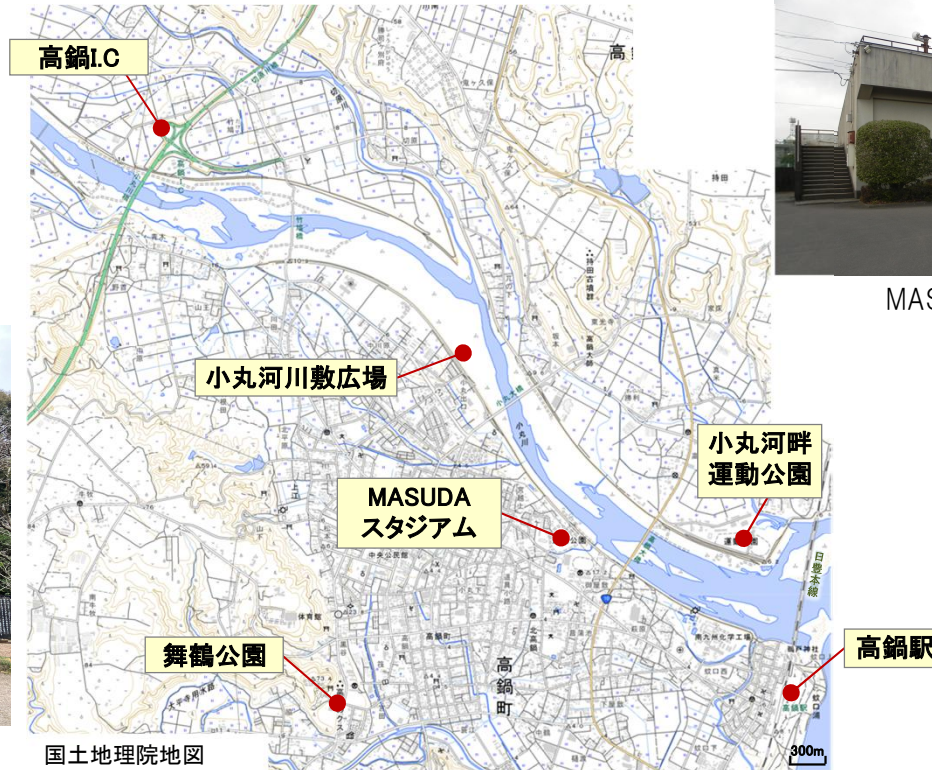
- ・高鍋駅は、令和2年に九州旅客鉄道株式会社より高鍋町が有償譲渡を受け、その活用方法等について譲渡以前から地域住民や学生と議論やアンケートを重ねながら、令和6年4月から改修工事に着手、令和7年3月に完成した。新しい駅は、観光案内所、地域の方々や駅の利用者がイベントや学習に利用できるスペース、絵画等を展示できるギャラリースペースなど地域活性化の拠点機能を備えている。
- ・平成22年に東九州自動車道高鍋I.Cが開通し、宮崎市内の宮崎空港からの所要時間が短縮された。
- ・その地形が、鶴の羽ばたく姿に似ていたことから舞鶴城とも呼ばれた高鍋城は、現在は史跡公園「舞鶴公園」として、園内に高鍋町歴史総合資料館や秋月種樹の邸宅を復元した「萬歳亭はなれ」なども整備され、「桜まつり」や「灯籠まつり」のほか、「木もれびクラフト市」などが催されており、四季を通じ人々の憩いの場として親しまれている。
- ・小丸川沿川には、小丸河畔運動公園、MASUDAスタジアム（高鍋町営球場）、小丸河川敷広場などのスポーツ施設が充実しており、多くの大会が開催されている。
- ・小丸川下流地区では、毎年町内外から多くの参加がある「舞鶴ロードレース（マラソン大会）」が開催されているほか、隣接するMASUDAスタジアムは、令和9年の国民スポーツ大会において軟式野球の会場として予定されている。



灯籠まつり



舞鶴公園



国土地理院地図



MASUDAスタジアム



ギャラリースペース



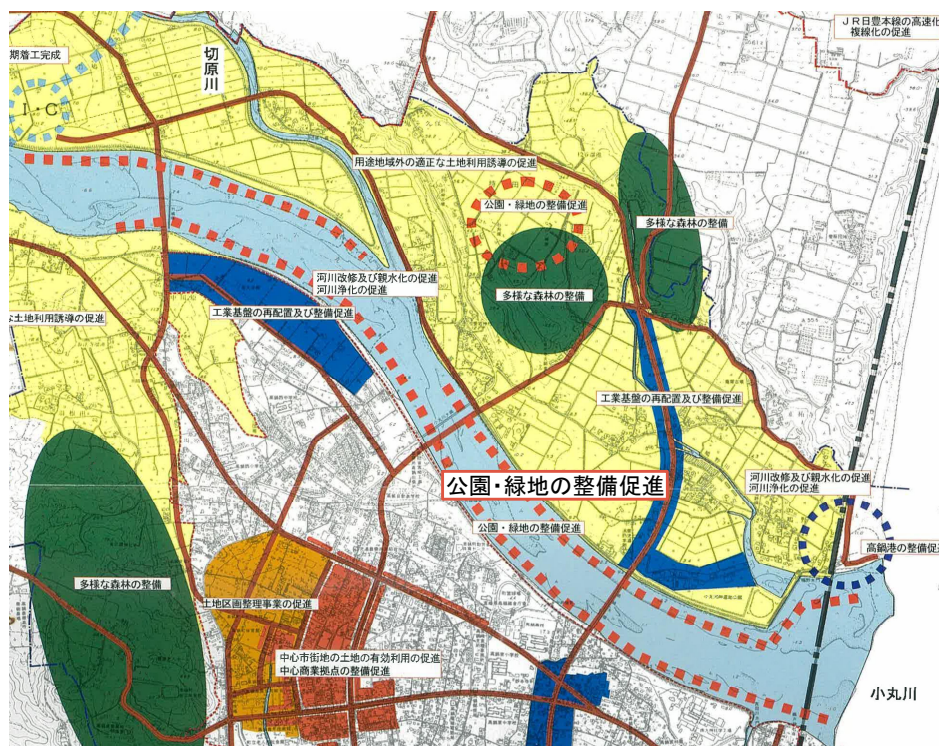
高鍋駅

## 高鍋町が目指すまちづくり

・高鍋町では、小丸川河川敷において、水辺空間と一体となった潤いのあるレクリエーション空間の形成を図る(①)他に、市民の健康づくりのためのまちづくりに取り組む(②)ことや環境保全活動を充実させる(②)こと、スポーツやイベントの開催を通して交流人口の増加を図る(③)ことを目指した計画を策定しており、小丸川の河川空間を、憩いの場やスポーツ交流の場、環境学習の場やイベント開催の場とし、交流人口の増加や地域の活性化を目指している。

## ①高鍋町都市計画マスタープラン(平成11年9月策定)

小丸川河川敷は、水辺空間と一体となった潤いのあるレクリエーション空間の形成を図ることが示されている。また、小丸川等の豊かな自然環境と歴史的資源を保全するとともに、観光資源としての活用及び住民の憩いの場や安らぎの場の形成を図ることとしている。



## ②第6次高鍋町総合計画 後期基本計画(令和3年6月策定)

持続可能なまちづくりや地域の活性化に向けた取り組みをSDGsの理念に沿って推進するとともに、「スマートウエルネスシティ」を重点プロジェクトに位置づけ、健康づくりの基本となる「歩く」ことに主眼を置き、そこに住んでいるだけで「歩いてしまう、歩き続けてしまう」まちづくりに取り組むことが示されている。

また、「環境保全活動の充実」を目標に掲げ、達成に向けて、保育園・幼稚園・小中学校における環境学習の推進や、環境に関する出前講座を充実させ環境学習の機会を提供していく旨が示されている。

※ウエルネス: 個々人が健康かつ生きがいを持ち、安心安全で豊かな生活を営むことのできること

## ③第3期高鍋町まち・ひと・しごと創生総合戦略(令和7年3月策定)

スポーツ大会やイベントの開催、観光の振興等地域の特性を生かしながら、高鍋町に訪れる人(交流人口)の増加を図ることができる取組を強化することが示されている。

## 重要業績評価指標(KPI)

交流人口の増加が見込める  
スポーツ大会、イベント等の  
開催件数

現状  
(令和5年度)

33件

目標値  
(令和11年度)

39件

## 地域の協力体制

- ・小丸川下流地区は、高鍋自然愛好会やNPO法人高鍋スポーツクラブ、高鍋高校等により、カヌー体験教室や生態系の観察や水質調査などフィールドワーク等に使用されており、今後も継続した利用が期待される。
- ・毎年開催のマラソン大会「舞鶴ロードレース」の際に、そのメイン会場の小丸河川敷広場にて、社会実験として地元農家の協力のもと野菜販売を実施、今後は、規模を拡大し、地元野菜の販売に加え、地元野菜のメニューの提供等を予定しており、都市・地域再生等利用区域の指定を見据えた取組も進められている。
- ・「かわまちづくり推進部会」に所属するNPO法人や民間組織、自治会、漁業関係者等により、かわまちづくりにおける整備内容や利活用、維持管理計画を議論してきており、今後、南海トラフ地震等に伴う津波浸水想定に対する避難経路や利用者への注意喚起、防災意識の普及等について検討予定であるなど、地域の協力体制が構築されている。



高鍋町スポーツクラブによる  
カヌー体験教室

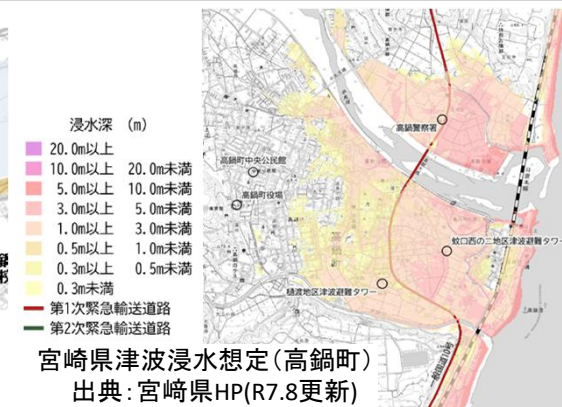


高鍋自然愛好会による  
水生生物調査



地元農家による  
地元野菜の販売

都市・地域再生等利用区域  
指定計画範囲



## 小丸川下流地区かわまちづくり計画(令和7年8月登録)

## 〈かわまちづくりの方針〉

- ・高鍋町の魅力である、歴史(百済王伝説、古墳)、豊かな自然環境(小丸川、河跡湖、自然河岸、日向灘)、様々なスポーツ利用ができる施設等を活用し、スマートウェルネスシティ(健康社会の実現)の推進、子育てをキーワードとした移住・定住人口増加促進を図るとともに、周辺市町村との連携を図りながら観光、集客拠点を目指し、賑わいのある小丸川河川空間を目指す。
- ・下流エリア(小丸大橋下流)は、親水機能を高めボートやカヌー、生物調査等の利用を促進するとともに、散策やウォーキング等による健康増進につなげる。あわせて、高鍋駅や舞鶴公園等市街地の観光名所からのアクセスを強化し、観光誘客に取り組む。
- ・上流エリア(小丸大橋上流)は、地域住民の活動の場として、利活用の安全性、利便性の向上を図り、利用者の増加を目指す。

## 〈かわまちづくり検討体制と取組〉

- ・高鍋町では、令和6年に「小丸川下流地区かわまちづくり協議会」及び「小丸川下流地区かわまちづくり推進部会」を設置し、これまでに、協議会2回、推進部会6回を開催。かわまちづくりにおける整備内容や利活用、維持管理計画を議論している。



推進部会の開催状況

## 小丸川下流地区かわまちづくり推進部会 委員名簿

団体名	役職
小丸川漁業協同組合	代表組員
宮崎県立高鍋高等学校	ボート部顧問
高鍋町観光協会	代表者
高鍋商工会議所	専務理事
小丸出口公民館	館長
大池久保公民館	館長
高鍋自然愛好会	会長
NPO法人高鍋スポーツクラブ	マネージャー
児湯・高鍋ライフセービングスポーツクラブ	会長
高鍋町 地域政策課	課長補佐
高鍋町 農業政策課	課長補佐
高鍋町教育委員会 社会教育課	課長補佐
高鍋町 建設管理課	課長
宮崎河川国道事務所	副所長

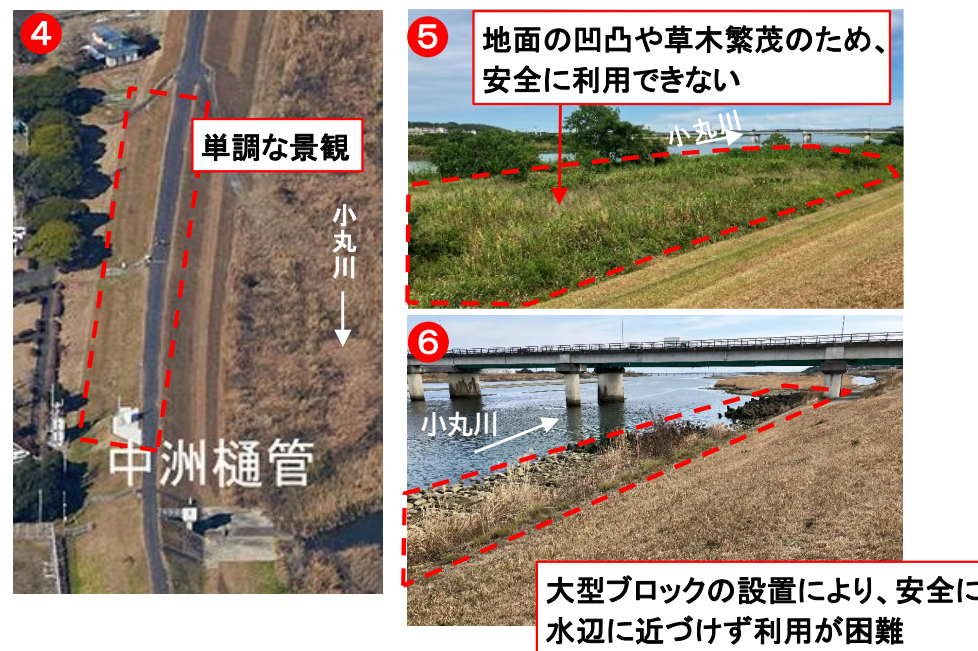
## ①小丸大橋上流の課題

- ・小丸河川敷広場は地域住民のスポーツ活動に多く利用されているが、通路や駐車場が未整備で利便性が損なわれている。
- ・近くにある河跡湖は、自然観察や生物観察等の学習の場としてニーズがあるが、広場から安全にアクセスできる通路がなく、十分な利活用がされていない。



## ②小丸大橋下流の課題

- ・堤防道路は通勤・通学のほか、ウォーキングやランニングの利用者も多いことから沿川の景観向上や休憩場所の整備が望まれている。
- ・高鍋町では、ボートやカヌー・SUP教室、自然観察等の水面利用のニーズがあるが、河岸への大型ブロック設置や高水敷の草木繁茂により安全に水際へ近づくことができず、利用がされていない状況である。



事業概要

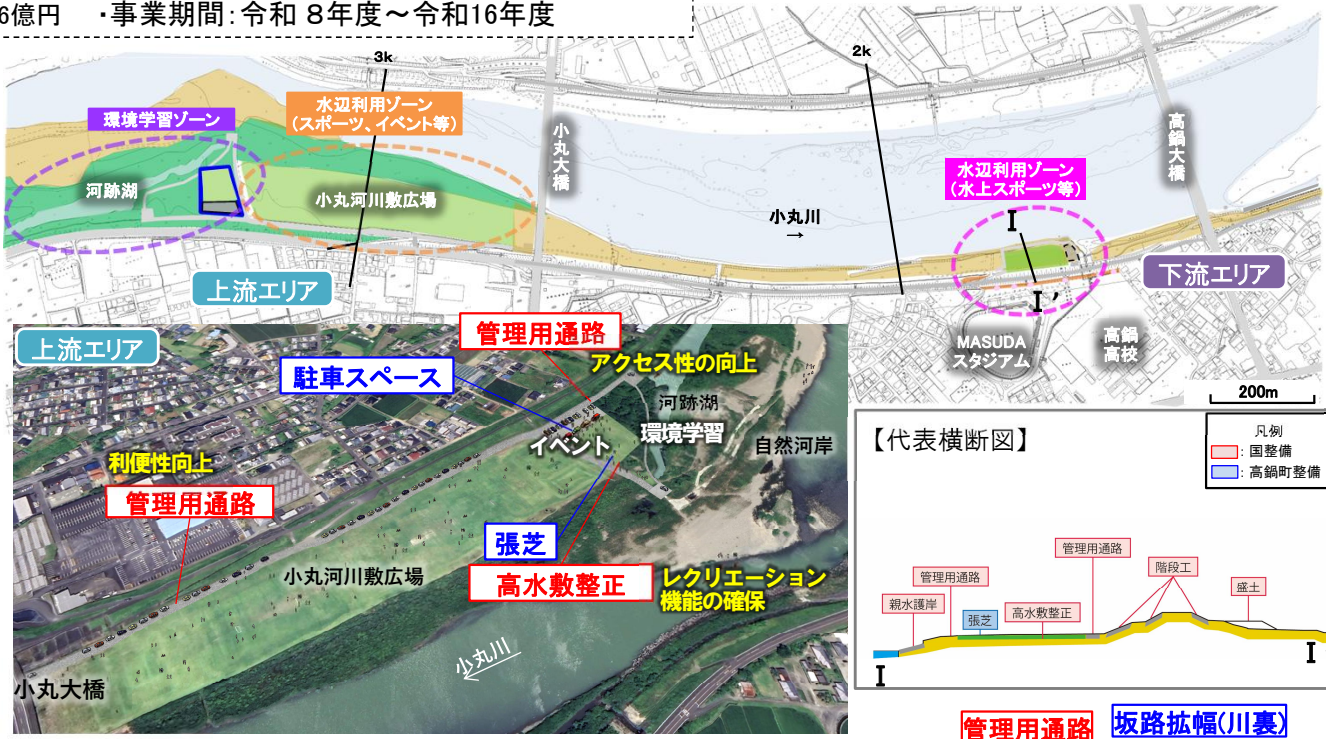
- 高鍋町が掲げる市民の健康づくりのためのまちづくりの推進や、スポーツやイベントを介した交流人口の増加に寄与できるよう、豊かな自然環境や地域の風土・文化を踏まえ、魅力的で活力ある小丸川を目指し、河川空間とまち空間が融合した賑わいのある良好な水辺空間の形成を図る。

・総事業費：約6.7億円(国) ※高鍋町の事業費約0.97億円を合計して約7.6億円 ・事業期間：令和8年度～令和16年度

※合計値は表示桁数の関係で単純計算と一致しない

整備内容

- 1. 管理用通路(国)**  
利用者の利便性の向上と水辺空間への安全なアクセスのため、河川管理用通路を整備する。
- 2. 親水護岸(国)**  
ボートやカヌー等の利用における水際への安全なアクセスのため、親水護岸を整備する。
- 3. 高水敷整正(国)、張芝(高鍋町)**  
幅広い層が楽しめる賑わいの場の創出のため、高水敷(スペース)を整備する。
- 4. 階段工(川表、川裏)(国)**  
水辺空間への安全なアクセスのため階段(川表、川裏)を整備する。
- 5. 側帯盛土(国)、植樹・張芝(高鍋町)**  
自然に歩きたくなる空間を創出し、散歩による健康増進に貢献できるよう、側帯の盛土及び植樹・張芝を整備する。
- 6. 駐車スペース(高鍋町)**  
周辺からのアクセスを容易にするため、駐車スペースを整備する。
- 7. 坂路拡幅(川表)(国)、坂路拡幅(川裏)(高鍋町)**  
ボートやカヌー等の安全な運搬をはじめ、水辺空間への安全なアクセスのため、坂路を拡幅する。



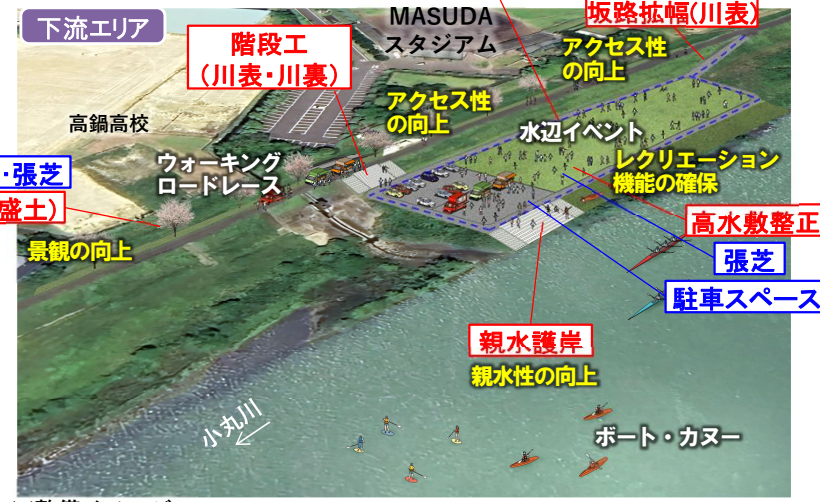
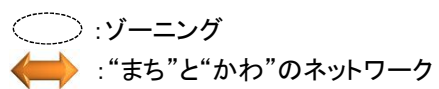
※整備イメージ

国整備 町整備



“まち”と“かわ”のネットワーク

・高鍋駅、舞鶴公園等市街地および観光名所等から、かわまち整備拠点へのアクセスを強化し、観光誘客にも取り組む。



※整備イメージ

## 総合水系環境整備事業の目的

健全な水循環系の確保に資する水質改善を行う「水環境」、生物の多様な生息・生育・繁殖環境の確保に資する湿地再生等を行う「自然再生」、地域関係の再構築に資する利活用空間の確保等を行う「水辺整備」の3つの環境要素を踏まえ、水系全体の河川環境について十分把握した上で、水系一貫して環境整備を行うことを目的とした事業

## 環境整備の方針

河跡湖や自然河岸に残る小丸川の自然豊かな環境を保全・継承するとともに、地域の風土・文化を踏まえ、魅力的で活力ある小丸川を目指し、河川空間とまちなか空間が融合した賑わいある良好な水辺空間の形成を図る。

## 環境整備の取組

- ・地域の賑わいづくりに資する水辺空間の整備に向けて、地域住民や関係機関と連携・調整し、ニーズの把握に努める。
- ・令和8年度より、「小丸川下流地区かわまちづくり計画」に位置づけられた治水上及び地域振興等に資する河川利用上の安全・安心に係る河川管理施設の整備を実施する。

## 事業の緊急度、関連事業との整合

- ・高鍋町では、小丸川の河川空間を、憩いの場やスポーツ交流の場、環境学習の場やイベント開催の場とし、交流人口の増加や地域の活性化を目指している。
- ・「第3期高鍋町まち・ひと・しごと創生総合戦略」(令和7年3月)では、「交流人口の増加が見込めるスポーツ大会、イベント等の開催件数」を令和5年度の33件から令和11年度までに39件に増やすことを目標としている。
- ・宮崎県では、昭和54年(1979年)の「日本のふるさと宮崎国体」以来48年ぶり2度目となる令和9年国民スポーツ大会の開催予定に伴い、交流人口の増加が見込まれており、観光需要の拡大や地域経済への寄与が期待されている。高鍋町は、バドミントン、軟式野球等の競技会場となっている。
- ・小丸川下流地区は地域活性化させたい地域の熱意も強く、年間を通じた観光拠点・利活用拠点として小丸川下流地区の水辺整備や一体的な利活用などサービス向上が急がれる。
- ・上流エリアでは小丸河川敷広場、下流エリアでは隣接する高鍋町総合運動公園(MASUDAスタジアム)の整備を予定している。

# 評価項目：費用対効果分析

## 費用対効果分析

- ・便益は、「仮想的評価市場法」(CVM)によって算定。また、本事業は周辺住民の利用と併せ、交流人口の増加も目的としていることから、便益は「住民」「観光客」を対象とした。
- ・住民の便益集計範囲は、小丸川下流地区の整備後の利用頻度の分析結果を基に、整備箇所から4km圏内とした。
- ・住民アンケートの有効回答数は115票、1世帯あたりの支払意思額(WTP)の平均値は、549円/月/世帯、観光客アンケートの有効回答数は82票、支払意思額(WTP)の平均値は、913円/日/人となった。
- ・費用便益分析を行った結果、総便益(B)は約23.4億円、事業費と維持管理費を合計した総費用(C)は約6.5億円であり、費用便益比(B/C)は3.6となる。併せて、感度分析も実施した結果、B/Cは3.3 ~ 4.0となる。

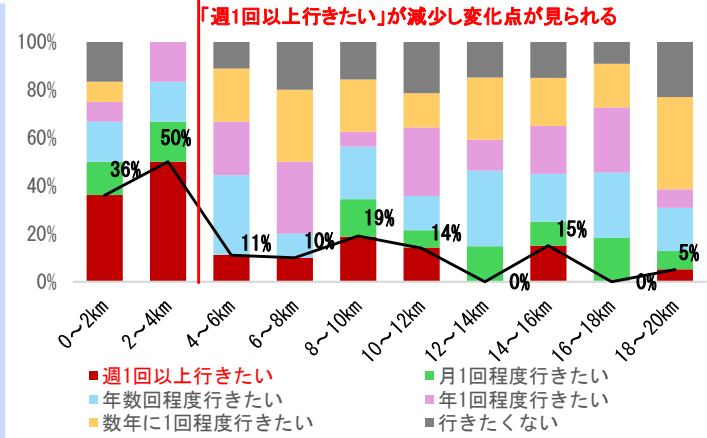
### ■ アンケート調査概要

	住民	観光客 (日帰りのみ)
実施形式	郵送調査	対面による聞き取り
標本となるデータ	住民基本台帳から抽出	舞鶴公園・高鍋駅来訪者
調査対象範囲	整備箇所から4km圏内	住民の便益集計範囲外
負担金に関する設問について	支払形態	負担金
	支払方法	月払い、年払いの併記
	提示額の設定	80・150・300・500・1,000・2,000・4,000・8,000円/月の8段階 ※「支払わない」の選択肢も設定
アンケート送付数	547票	—
回収数 (回収率)	160票 (29.3%)	104票
有効回答数 (回答率)	115票 (71.9%)	82票 (78.8%)

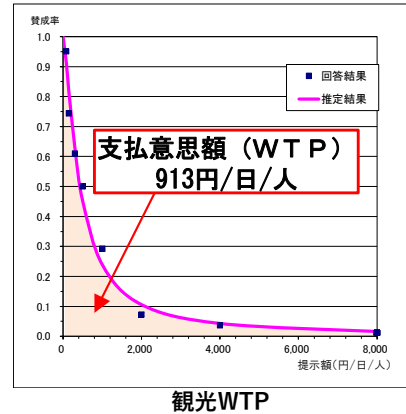
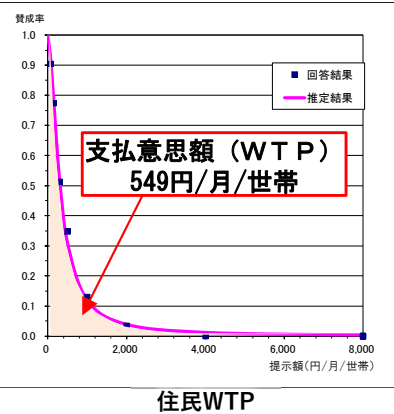
### ■ 住民の便益集計範囲



### ■ 住民の便益集計範囲 設定根拠



### ■ 支払意思額



### ■ 事業の投資効果

(単位:百万円)

項目	全体事業
便益額	2,344
(B) 便益	2,344
費用	648
(C) 事業費	502
維持管理費	146
費用便益比(B/C)	3.6

・社会的割引率(4%)及び治水経済デフレータにより現在価値化した値  
 ・消費税相当分の除外が必要な項目は税相当分を除外  
 ・B/Cは小数第二位、それ以外は小数第一位で四捨五入している  
 ・合計欄は表示桁数の関係で単純計算と一致しない場合がある

### ■ 感度分析

	基本	事業費		工期		便益	
		+10%	-10%	+10%	-10%	+10%	-10%
便益額(B) (百万円)	2,344	2,344	2,344	2,253	2,437	2,578	2,109
費用(C) (百万円)	648	699	598	638	658	648	648
費用便益比(B/C)	3.6	3.4	3.9	3.5	3.7	4.0	3.3

### ■ 《参考値》 社会的割引率による費用便益比

	社会的割引率1%	社会的割引率2%
費用便益比(B/C)	6.3	5.2